2021 年 1 月 17 日

神戸市にて、「防災チャットボット『SOCDA（ソクダ）』」による消防団員と市民を対象とした訓練を実施

消防団員の訓練では、新たに実装した安否確認機能を活用

AI 防災協議会（理事長：江口 清貴）は、2021 年 1 月 17 日、神戸市にて、「防災チャットボット『SOCDA*[1]（ソクダ）』」による、消防団員と市民を対象にした訓練を実施しました。

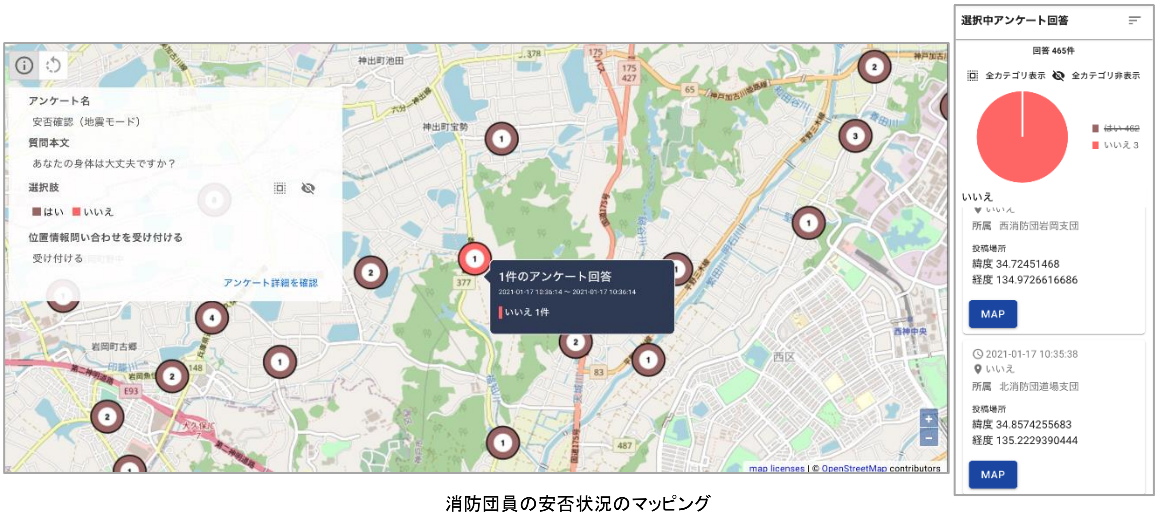
神戸市では、SOCDA の実証実験を行なっており、2019 年より、専用の LINE 公式アカウント「神戸市消防団」*[2]と「SIP-KOBE 実証訓練」*[3]を、それぞれ市内の消防団員、市民を対象に開設しています。

【消防団員を対象とした訓練】

今回、SOCDA の LINE 公式アカウント「神戸市消防団」には、団員の安全管理を目的に、新たに消防団員安否確認機能を実装しました。本アカウントによる自動応答のトークを通して、団員ひとりひとりの安否確認をするものになります。
訓練は大地震が発生したという条件下で行い、団員からの安否の報告を AI が地図上にとりまとめて表示し、市内の各消防団員の状況を把握しました。消防団員の参加者 591 名全ての安否確認を問題なく行うことが出来ました。

ユーザーの安否確認を行う機能の実装は、SOCDA としても初めてのトライアルでした。実運用に向けて、さらなる検証を続けてまいります。

LINE 公式アカウント「神戸市消防団」を通した安否確認



消防団員の安否状況のマッピング

訓練の様子

【市民を対象とした訓練】

また同日、神戸市では、コロナ禍のような状況においても、一人でもどこでもできる、いざという時のための試みとして、防災活動に特化した取組み「マイトライアル 1.17」*4が展開されました。その中で、SOCDA の LINE 公式アカウント「SIP-KOBE 実証訓練」を活用し、災害情報の投稿を行う市民参加型の訓練も行われました。

「阪神・淡路大震災クラスの地震」が発生した想定で、市民から、市街の状況を投稿していただきました。アカウント登録者数は去年よりも約 3,000 人増え、コロナ禍でありながら 1,818 件の投稿があり、SOCDA の神戸市民への浸透が見て取れました。

今年は、昨年の 1.17 の同様の訓練結果を受け、操作方法をより分かりやすく改善して行いました。引き続き、多くの市民の方にとって使いやすく、実災害時に役立つものとなるよう、改善を重ねてまいります。

＊1　SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称　SOCDA = SOCial-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社ウェザーニューズが、LINE 株式会社の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第 2 期「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」のテーマⅠ「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」（研究責任者:防災科学技術研究所　臼田裕一郎）のサブテーマ 2「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づくもの。

＊2　LINE 公式アカウント「神戸市消防団」

詳細は、AI 防災協議会プレスリリースをご参照ください。

https://caidr.jp/data/SOCDA_190725.pdf

＊3　LINE 公式アカウント「SIP-KOBE 実証訓練」

詳細は、AI 防災協議会プレスリリースをご参照ください。
https://caidr.jp/data/2019-08-29press.pdf

＊4 「マイトライアル 1.17」
詳細は、神戸市ホームページをご参照ください。
https://www.city.kobe.lg.jp/a46152/bosai/prevention/preparation/mytrial.html